

緑園都市フォーラム「みどりが街を結ぶ」 記録

日時：2012年7月28日（土）13時～15時

場所：柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）



参加者：約60名（関係者15名、一般参加者45名）

概要

- ・各団体より、活動の概要や課題について報告がなされ、改めて柏の葉の貴重な自然環境や活発な活動について認識を共有した。
- ・各団体共通の課題として人手の確保があげられ、特に新しい住民をいかに主体として巻き込んでいくかという点があげられた。そのために、参加のハードルを下げること、楽しんで続けられる工夫とすること、企業の参加を促進することなどがあげられた。また、スクール等の受講生をはじめとする活動意欲の受け皿についての情報発信・相談窓口の必要性、あるいは団体間の情報共有を促進する必要性が指摘された。
- ・みどりの様々な意義（自然生態系保護、まちの価値の向上、健康・精神的効果、教育、エネルギー等）と、これらを踏まえながら全体的視野を持って取り組む必要性について議論された。
- ・計画を実行に移していく行政の役割、特に行政部局間連携の必要性についても指摘された。一方で、行政に委ねるだけでなく、市民も意識を高めながら、ともに取組んでいくことの重要性についても述べられた。
- ・パネルディスカッションでは、みどりに関わる連携のプラットフォームや、ワンストップの相談窓口の必要性並びに、今日を契機として継続的に情報共有の機会を設けていくことを確認した。
- ・最後に出口センター長より、以下の5つのポイントがまとめられた。
 - ① 人を惹き付ける方策（参加の促進、UDCKの役割）
 - ② 学んだ知識を活かすための方策。
 - ③ 活動をつなぐ方策（市民組織間、行政部局間、公民学連携）
 - ④ 活動を継続する方策（楽しむ工夫）
 - ⑤ みどりをエネルギーにするための方策
- ・本フォーラムを契機に秋ごろに、多くの市民参加を目標としたイベントを開催することを確認した。

1. 開催趣旨

<UDCK 三牧>

- ・ 柏の葉キャンパス駅前の開発が進み、周辺のまちづくりの議論が本格化している。こんぶくろ池公園はもとより、新たな公園や調整池、道路の整備も予定されているが、魅力的なまちにしていけるために、その整備をいかに質の高いものとし、維持管理していくかが課題となる。資金面等、行政にできることが限られるなかで、地域としてどこまでのことができるのか、何が課題なのかといったことを関係者中心に本質的な議論を始めるきっかけとして、本日のフォーラムを開催した。
- ・ また、千葉大学のプログラムであるカレッジリンクの修了生の皆さんによる一般社団法人も設立され、新たな担い手として期待されている。この機会を捉えて、実際に活動されている方々にお集まりいただいた。
- ・ 秋ごろに、より広く市民の方々向けに発信する企画を想定している。今日はそれに向けた議論のきっかけになれば良いとも考えている。

2. 「緑園都市構想」と柏の葉のまちづくり

<柏市北部整備課 奥山>

- ・ 平成8年、合併前の柏市において、つくばエクスプレス整備を踏まえた柏市北部の地域整備の方向として、「緑園都市構想」が定められた。鉄道用地等の先買いをしていた時期にあたり、地権者にまちづくりの方向を説明する役割もあった。
- ・ 緑園都市構想では、「活力と環境の調和」をコンセプトに、3つの基本理念、7つの整備テーマを定めている。回廊や軸を位置づけ、シンボルとしてこんぶくろ池公園の整備をうたっている。イメージの中では、野馬除けの保全やせせらぎの整備や調整池の親水公園化なども示されている。これらは現在の取組みにもつながっており、これからも活かせるものである。
- ・ その後、平成20年に策定された「柏の葉国際キャンパスタウン構想」では、緑園都市構想の考え方をひきつぎつつ、「公民学の連携」をコンセプトに取組み方や仕組みを補完している。
- ・ 駅前街区に比べて、これからの主対象となる周辺地区は所有や用途様々な土地が混在しており、一定のコントロールと理解・合意を得ながら進める必要がある。また、高質化の考え方、責任と参加の問題、維持管理費、ニーズとのミスマッチなどの課題も増えている。
- ・ みどりは、まちの価値を上げる役割への視点、防災・教育・精神面への効果など、様々な視点でとらえていく必要がある。
- ・ 「行政」と「市民」という対立軸ではなくて、一緒に取り組んでいくという視点が大切である。つくる、管理する、改善するという各段階において、「ともに」取り組む必要がある。
- ・ エリアマネジメントの視点では、国もマニュアルを整備し、都市再生整備推進法人等の制度も整えられつつある。オープンスペースの維持管理を超えて、暮らし全体をより良いものにしていくマネジメントにつなげていくということが共有できると、次の一歩に進められる。

3. 活動報告

① NPO 法人こんぶくろ池自然の森（八代）

- ・ こんぶくろ池自然博物公園の予定地は、現在60%強、市で購入済みで、残りは民有地という状況。公園としての整備はまだできておらず一般にオープンはしていないが、一部だけ散策路として整備している。
- ・ 平成15年に柏市が公園整備基本計画を策定。保全・再生・創出をゾーニングした基本計画に基づいて、現状把握をし、アドバイザーの先生方の指導もとで、NPOが調査や整備に取り組んでいる。
- ・ マンションに近い南東角の部分（一号近隣公園）についてどう整備し、住んでいる方と共有していくかが課題と考えている。
- ・ こんぶくろ池は、大地の上に染み出す珍しい湧水。冷たい空気を運び、湿地帯に貴重な植物が育まれている。

- る。氷河期の遺物と称される群落が、南関東に残されており、生態系としても貴重。
- ・水の確保、湧水の保全が大きな課題。植物の変化についても毎年調査しながら取り組んでいる。
- ・是非皆さんとともに参加者を募りながら進めていきたい。

② 柏自然ウォッチャーズ（青木）

- ・2006～2008年に実施された柏の自然環境調査は、調査員を公募し、市民目線で詳しい動植物調査が行われた。その参加者を中心にフォローアップや保全活動のために、柏自然ウォッチャーズという組織を作って活動をしてきた。
- ・柏の葉に縁の深い正連寺地区と十余二の森の二つを紹介する。
- ・正連寺地区には、こんぶくろ池同様の湿地性環境で多様な生物が生息しているが、TX沿線開発のなかで住宅地化される。調査結果をもとに、少なくとも一か所の水辺環境を残せないかという話し合いをしてきた。1号街区公園を自然公園として残してもらうことになり、調査や草刈りなどの保全活動を行ってきた。現在、公園周辺の森も含めた公園の拡大に向けた要望書を出しているところである。
- ・十余二の森は工業地帯の端に残る森である。小学校・中学校用地となる計画があったため、苦肉の策として希少種を予定地の端に移植した。隣の樹林地も公園の中に残していただくこととなった。
- ・自然の現況を「カルテ」としてまとめながら、保全活動を実施。行政は土地を所有し年に一度草刈りをし、日常的にはウォッチャーズのメンバーが手で草を抜いたり、囲いをつくるなどの役割分担で取り組んでいる。
- ・公的な開発に関しては、計画の最初の段階から状況を把握し、自然保護の考え方を提示していく必要がある。当エリアでは、ごく微々たる緑地を残せることとなった。活動を通じて地権者の方の理解・協力も徐々に深まるなど、それなりの成果があがっている。ただ、我々だけでは長続きしない。周辺住民が保全に関わっていただくようにしていく必要がある。

③ かし＊はな（武井）

- ・まちを花や緑で美しく彩るプロジェクト。花や観葉植物だけでなく、ハーブや野菜、フルーツなど、食べられる植物も緑の景観に加えることで、キャンパスタウンらしいユニークな景観づくりをめざしている。
- ・駅周辺にフラワータワーやレイズドベッドを設置。レイズドベッドは車いすでも作業できるものである。
- ・毎週水曜 9:30 から1時間程度を基本に、随時有志で活動を行っている。
- ・苗の半分は購入、半分は自分で植えたいものを持ちこむ。
- ・駅前に小さな畑があるという考えで、ゴーヤやジャガイモ、落花生やサツマイモなど、野菜も多く植えており、収穫や調理のワークショップも開催している。
- ・まちづくり協議会とも連携を始めているほか、高架下のお店、NPO法人花工房カモミールなど、多様な方に支援をいただいている。参加者を増やし、認知度を高めることで活動をさかんに行きたい。

④ 一般社団法人カレッジリンク・ネットワーク（鈴木）

- ・7月31日に、一般社団法人として登記される予定である。環境、健康、食の視点から日常生活に直結する問題をコミュニティとして解決していくことを目的としている。
- ・千葉大学で行っているカレッジリンクプログラムは、大学と市民が学び合い、知識を社会とリンクさせたいというもの。アメリカでは60大学くらいで取り組まれており、日本では2例目。受講生の方々も意識が高く様々なアイデアが出てくる。個人のライフスタイルでできることはあるが、それだけでは限界がある。地域として取り組むプロジェクトのプラットフォームとなる団体をつくりたいということで、今回の社団設立に至った。
- ・「グリーンペディア」はインターネット上の緑の辞典を目指すもの。まちに植わっている様々な樹木を知るだけでも様々な楽しみが生まれる。QRコードを読み込むことで樹木の情報を得られ、クチコミもできる新たなソフトを開発した。プラットフォームと通じて双方向の情報交換を行おうというもの。

- ・ 柏の葉には公民学のオープンスペースが沢山あるが、通常は分断されて管理されている、先ほどのソフトを発展させながら一元管理するところまでつなげていきたい。管理の効率化だけでなく、まち全体のみどりの管理の質やテイストをそろえることで、景観的にも柏の葉スタイルができるのではないかな。
- ・ その他、駅東口にある樹齢400年の貴重な有楽椿の遺伝子を残してまちに広げようというプロジェクト、柏の葉のトピアリーをつくらうというプロジェクトも進めている。また、千葉大学内のグリーンフィールドを、皆さんが憩える柏の葉のセントラルパークにできないかと考えている。

4. パネルディスカッション「みどりのまちづくりに地域ができること」

<千葉大学 野田>

- ・ 緑園都市構想の実現のためには、様々な場所の管理をどうやってつなげるか、全体論で話を進める必要がある。それは柏の葉に限った話ではなく、マネジメントの仕組みとして柏全体にも展開できるし、様々な地域に展開できるものにもなる。いかにして連携体制をつくるのかをディスカッションのテーマとしたい。
- ・ 一方で、何のために連携をするのかという視点も重要。共通で管理することで何が効率的になるのか、どのようなメリットがあるのかについてもディスカッションできればと思う。
- ・ まずは、各団体が抱えている課題や将来像についてお話いただきたい。

<こんぶくろ池 八代>

- ・ こんぶくろ池では、そもそも計画どおりに進められるかが課題。周辺の宅地化が迫りつつあるなかで、環境が変わる。公園の近くでは根っこや落ち葉などの苦情も出てくる。いかに仲良くしていけるか考えていく必要がある。
- ・ 次世代へこんぶくろ池の貴重な自然をいかに残すか。ズミの更新も進んでおらず、枯れてしまったものもある。更新が進まない要因として、花粉を運ぶ虫が足りないことが判明した。そのためには、街の中のみどりを整備していくという対応も必要になる。

<ウォッチャーズ 青木>

- ・ 私たち活動主体が高齢化している。いかに参加者を増やすかにつける。活動にはパワーも必要であり、特に若手を増やしたい。
- ・ 植物のこと等、何も知らない人にとっては、自然をテーマとする活動団体への参加はハードルが高い。植物の名前等が分からず、ベテランメンバーの会話についていけなかったりする。ちょっと関心をもった人が入りやすいような度量の広い活動にしたい。
- ・ 今日は森林保護団体の方が来ていない。柏市で最もみどりの保護活動をしているのは森林保護の団体。そういうところも含めて、自然系の活動団体のネットワーク化、交流の必要性を感じる。交流を通じて各団体の参加者を増やすことにつながるのではないかな。
- ・ 企業の方にも人を出してほしい。正連寺エリアには、まだ人は住んでいないが工業地帯はある。イベント等への参加を呼びかけると、参加される企業も増えてきている。そういう部分を広げていきたい。

<かし*はな 武井>

- ・ 参加者がなかなか集まらないのが課題。特に夏は水やりが大変で、人手が欲しい。人手を増やすことで楽しい活動にしていきたい。
- ・ 現在、団体の運営（市役所への書類の申請や植える花の選定等）を、私の所属する藤崎事務所が行っているが、これからは少しずつ参加者に振り分けて、運営側へとまわってもらうことで、地域の中で回る活動にしていきたい。

<カルネット 鈴木>

- ・カレッジリンク修了生は200人くらいいる。知識が高まると何かやりたくなってうずうずしてくる。知識の筋肉をつけて社会にどうやっていかすのか、それが自分の喜びになる。それが重要なことだと思う。
- ・公民学といっているが、街路樹一つをとっても市民の目線で見ると、違う見方になる。この「3つ目の目線」を有効に活かすための仕組みを考えていきたい。

<柏市北部整備課 奥山>

- ・右肩上がりの時代の街づくりでは、区画整理事業によって街の価値を高めてきたが、これからは区画整理事業だけでは街の価値は高まらない。また、区画整理事業は地権者の合意を得ながら進めているが、専門家が換地計画をつくってそこで決めていく世界であり、地権者と新住民、来街者の意見を反映する仕組みにはなっていない。今できている街が果たしてニーズにあっているのか、という課題がある。今まさに様々な方々の意見を聞きながら、何ができるのかを議論している。

<野田>

- ・こんぶくろ池自然植物公園の今後の整備計画について教えていただきたい。

<柏市緑政課 谷口>

- ・こんぶくろ池自然博物公園は、こんぶくろ池自然博物公園は18.5haのうち、12.5haの土地を取得する計画で、今年度末までに80%取得予定。交渉事なので確実なことはいえないが、H27年度ごろまでに全て用地を取得する予定で、その後施設の整備を進めていきたい。
- ・こんぶくろ池公園の整備は、大学のアドバイスを受けながら、市民が中心となって調査や里山活動を進めている。市は市民だけでできないことをサポートしているが、「公」の中でも、市と県など横の連携が難しい面がある。広く展開していくためには、強い「民」を活かしながら、市として何ができるのか、県とどう役割分担していくのか、考えていく必要がある。

<野田>

- ・活動の熟度によって様々な課題があるということが再確認できた。
- ・みどりのまちづくりを進める上で、市の担当課は北部整備課、緑政課、道路維持管理課、環境保全課など複数の課にまたがる。市民活動間の連携を強めることによって、その総意を市に伝え、市内部での横の連携を促していくことが重要であろう。
- ・今後、どのような連携が考えられるか、イメージがあれば会場も含めてご意見いただきたい。

<こんぶくろ池 谷口>

- ・それなりの情報は得ながら活動をしているが、人集めの問題はある。コミュニケーション機会の拡大は必要。

<ウォッチャーズ 青木>

- ・そんな良い手はないが、団体間での情報共有は必要。
- ・活動を持続していくためには、このエリアに暮らす新しい住民に担い手になってもらう必要がある。この地域の方を巻き込んでいく上で、UDCKの役割は大きい。
- ・緑の基本計画や生物多様性プランなど、内容は素晴らしいが具体化しなければ何の意味もない。縦割りではなく行政内で横串をさして、取組んでいただきたい。みどりを守るためのガイドラインも是非作っていただきたい。

<かしはな 武井>

- ・ こんぶくろ池から竹の支柱をいただいたり、地元のカモミールさんに手伝ってもらうなどしているが、個人の知り合いのツテで行っている状況。公園緑政課やグリーンペディアなどで、必要としている情報が得られる仕組みがあるとありがたい。

<カルネット 鈴木>

- ・ 活動を楽しみ続けられることが基本。柏の葉のみどりは多様であり、どうやって連携していくかは簡単ではない。こういう機会を継続しながら情報共有をしていきたい。

<柏市北部整備課>

- ・ 行政の維持管理部門は、電話一本で草刈りに行かないといけないなど疲弊している。事故が起きたら市の責任を問われるということもある。職員も意識を変える必要があるが、市民とともに話し合いながら、より良い方向に行けるように考えていきたい。

<野田>

- ・ 参加者のみなさんから、ご意見ご感想をいただきたい。

<三井不動産 中田>

- ・ 今日は実際に活動されている色々なお話を聞いて参考になり、感銘を受けた。企業としてもできる限りのことはやっていきたい。
- ・ 一方で新しく柏の葉に住んでいる方と話をしていると、こうした活動、貴重なみどりがあることを知らない人が多く、残念。そのギャップを埋めることが課題。新しく住まれた方に加え、二年後にはオフィスやホテルもできて様々な人が来る。そういった方々によりわかりやすくまちの魅力であるみどりに出会える活動をUDCK中心にやっていければ良いと考えている。
- ・ 10月に次のイベントをやるならば、外で実際にみどりに触れながらできるようなことができれば良いと思う。

<千葉大学 上野>

- ・ 今日の話聞いて、UDCKの最初のころを思い出した。みどりに特化したUDCKの子ども組織のような形で、「柏の葉グリーンデザインセンター」があると面白い。少なくとも、一か月に一度は、関係団体、関連部署が集まって今の活動報告とこれからの相談ができる機会を持つてはどうか。10月のイベントもそこで企画をすれば良い。

<参加市民>

- ・ 一般市民を対象にしたスクールに参加された方々の受け皿として、相談窓口のようなものはあるのか。住んでいる住所から活動を紹介するなど、次のステップを示すことができると良い。
- ・ 印西市でも大規模な開発が進んでいる。それを改めて見直そうという動きがあり、市民運動も始まっている。自然は壊し過ぎると戻すのが大変であるということを、改めて意識していただければよい。

<野田>

- ・ 情報のワンストップサービスとなる場所を考えていく必要があるということが、今日の一つの結論だと思う。
- ・ 少し観点は違うが、私は、みどりをエネルギーとして捉えている。なぜ街路樹を切って熱エネルギーとして使わないのか。みどりの維持管理にあわせて、それをいかにエネルギーとして使っていくのか、という観点からも、みどりとまちづくりを考えていきたい。

<三牧>

- ・単に行政に注文を付けるのではない、まちのみどりの管理の新たな仕組みについて、シンプルでわかりやすい形をいかにつくっていくかが課題だと思う。
- ・今日のフォーラムで終わりにせず、継続的にこうした場をもうけていきたい。

5. おわりに

<UDCK 出口>

- ・お礼のご挨拶だけするつもりだったが、みなさんのお話に刺激を受けて、秋の企画に向けたこれからのみどりのまちづくりのポイントとして、次の5つを挙げたい。
 - ① 様々な人に関わってもらうための人を惹き付ける方策。人を惹き付ける窓口としてのUDCKの役割をみんなで考えることも必要。
 - ② 学んだ知識を活かすための方策。
 - ③ 活動をつなぐ方策。つなぐことによる相乗効果も考える必要がある。市民が連携して、県（道路並木等をつくる事業者）と市（事業後の道路や並木の管理者）をつなぎ、事業性ばかりに捉われない、みどり豊かなまちづくりを推進していく。
 - ④ 活動を継続する方策。お祭りやイベントも一過性で終わらせず、リピータを増やす工夫や、楽しく続けることが重要。活動の成果として美味しいものを一緒に食べて楽しむことなども大切。
 - ⑤ みどりをエネルギーにするための方策。みどりは、物的なエネルギーでもあり、心のエネルギーにもなる。
- ・本日は、短時間にも関わらず、様々な貴重な話をお聞きでき、大変有意義なフォーラムを開催することができた。皆さんすごい活動をしているのに、それを淡々とお話されているのが印象的だった。活動の重要性への自負が背後にある故のことかと思った。
- ・今回は、「みどりが街をつなぐ」というテーマであったが、むしろ「街がみどりをつなぐ」ということを考えていかないといけない。
- ・ご登壇者、ご参加いただいた方々、企画と準備でお世話になった方々に心からお礼を申し上げたい。

以上